〒101 8308

TEL:03

発行:日大土木会広報部会

東京都千代田区神田駿河台1 8 日本大学理工学部土木工学科内

0662

3259

FAX:03 3293 3319 http://www.nu-dobokukai.com

異業種交流パネル討論 各部会が本格的に始動 学部土木工学科教授 木田哲量:日本大学生産工

日時:平成13年9月21日 部駿河台校舎901講堂

バネラー: 開催場所:日本大学理工学

業務部会では、異業種交

一つの研究パネルなど コンサルタンツ会長 吉田 弘:佐藤工業

二つの研究パネルが開催

換が行われた。

様々な産業があり、多岐に行っている。異業種とは、

わたるものである。将来的

的とした企画と運営を執り発、情報交換、その他を目

位に貢献できるビジネス啓

との交流を通して、会員各 流委員会を設置し、異業種

回研究パネル

された。 会においてそれぞれ3テー 球環境技術委員会の両委員 ネル、また9月に第2回研 **究パネルが開催された。** 先端技術研究委員会、地 去る 3 月に第1回研究パ

流が望ましいところではあ

には、幅広い異業種との交

かりなので、当面は建設産 るが、活動が緒に付いたば

業内での活動を展開する。

そのはじめとして「建設

演題のもと、次の方々をパ ネラー に迎え討論会を開催 産業の現状と将来」という の参加者のもと盛況に終わ 木業界が抱えるであろう問 マの発表があり100余名 た。現在および今後の土

> 清野茂次: オリエンタル 備センター 特別顧問 松田愼一郎:都市みらい整

社 長

会カール・エミール・ヒル 開催場所:日本大学理工学 受賞記念講演:米国土木学 部駿河台校舎731講堂 (IT)とこれからの土木》

発表がなされ活発な意見交題を様々な視点から捉えた 日時:平成13年3月22日(木) 学部専任講師、H7理工 修)、石川元康(国際関係 工学部助教授、561理工 S43理工修)、安田陽一 (理 大津岩夫 (理工学部教授、 ガード水理学会賞 題を絞って着実に事業を行 り込んで、多くを求めず課 様のご意見をできるだけ取 できればと考え、会員の皆 技術研究委員会委員長、 み具体的で実のある活動が 司会: 秋山

テーマ:《情報通信技術

工交通) 制部管制技術課長 視庁交通部理事官、S41理 スマートウェイとITS 首都高速道路公団交通管



バイオガス化発電システム 性廃棄物資源化グルー プ長 教授、S43理工修) 環境技術研究委員会委員 地球温暖化対策と生ゴミ 司会:遠藤 茂勝(地球 鹿島建設 環境本部有機 生産工学部土木工学科

尚夫 (先端 警 画と道路 和彦 (S50理工交通) 福祉のまちづくり推進計

ステム (GIS) の活用 (S46理工交通) 土木分野への地理情報シ

修課課長補佐 柳川

宣彦

工学科教授

和 田

明 $\widehat{\mathsf{s}}$

ター 常務理事 和田 克哉

首都高速道路技術セン

木工学科教授、543理工

(S41生産土木)

日本大学生産工学部土木

点から

ライフサイクルコストの視

環境技術研究委員会委員

司会:遠藤 茂勝(地

長、日本大学生産工学部土

アセットマネジメント、

地球温暖化をめぐる諸問

展望

東京都第三建設事務所補

事業本部空間情報事業部営 業部 青木 国際航業株式会社東日本 純一(S53生

理工土木)

理事長 三橋 宏次(537)漁港漁村建設技術研究所

予測と今後のあり方

社会資本の維持更新日の

リサイクルの経緯と現状

東京都における下水汚泥

八千代エンジニアリング

横山 博一(S39理工土木)

建設業の環境ビジネスへ

日本下水道事業団理事

日本の自然条件と漁業

地球環境技術研究

産土木)

部駿河台校舎901講堂 開催場所:日本大学理工学 **日時 : 平成13年9月8日(土)** 第2回研究パネル

について

(一ジメントの視点から

日本鋼管 総合エンジニ

トと生態系

海外の動向、ブリッジマ

する維持、補強、補修管理

リング本部環境エンジニア

大林組環境エンジニア

リング部副部長 峠 和男

(S41理工経営)

発電所の環境アセスメン

鋼橋および鋼構造物に関

石井(艮昌(S45理工交通)

の取り組み

技術本部企画開発課長

視庁交通部理事官、S41理技術研究委員会委員長、警 ーリアルとメンテナンス」 テーマ:「インフラのニュ 先端技術研究 司会:秋山 尚夫 (先端 産土木) アリング事業部鋼構造本部

主席 五十畑 弘(S46生

査グルー プマネージャ 副部

北原 宏一(S52理工

東京電力 環境部環境調

構造物全般の維持管理の テーマ:「環境ウォッチン 地球環境技術研究

国際化と技術革新対応 るූ

っていきたいと考えてい

々の処々のご要望を取り込

企画部会は、産官学の

山崎裕司先生

特別講演会

として、以下のものがある 企画部会の各委員会活動 企画と運営 各委員会活動:

委員会による特別講演会を が、そのはじめとして企画

その他の関連との交流と情 涉外委員会 日本大学、

報交換 業界の動向に関する情報交 国際委員会 世界の建設

演会、事業化の研究会、他企画委員会 見学会、講 の委員会に属さない事項の 平成13年6月20日、

れず、住宅環境の整備への と題して行われた。公共事 世紀の建設経営を考える」 を開催した。講演は、講師 先生を迎え、「動乱!二十一 総会に先立ち、特別講演会 業費の大幅な削減は避けら システムズの山崎裕司 通常

特別講演会:

あるとの内容を中心におよ 取り組みが打開策の一つで

そ90分に渡り熱心な講演が

異異種交流会 第一回パネル討論会 田清臣会長からは、本年度 からいよいよ本格的に日大

通常総会 平成13年度通常総会並び

強い挨拶があった。

土木会の活動を行う旨、

力

より提出され説明があった。

て審議の結果、

了承。

雨森 司瑞利(S52理工

工交通)

日(水)午後6時より、ホ テルグランドパレスにて行 に懇親会が平成13年6月20

峯夫氏)主催の特別講義が多 くの参加者のもと行われた。 副会長兼企画部会長 森元 総会に先立ち、企画部会 引き続き、総会に入り山

出席者(委任状含む)

会長の松田愼一郎氏が選出議長に、副会長兼業務部

第一号議案、十二年度の収

事業計画など

第二号議案、旅費、講師の 謝礼金、原稿料等に関する 三橋広次氏よりあり 了承。 決算の監査報告が監事

は総務部会長の村田恒雄氏 旨、宣言された。以下議案

会則、

この意見交換会。

9名の過半数で総会成立の 1250名、会員総数198

13年度通常総会を開催 支決算並びに事業報告

細則の改正案につい 茂次理事の締めにより、撤の場となった。最後に清野

以上により、総会は無事終 画。審議の結果、了承。 が多数の参加者のもとに盛 第四号議案、13年度予算。 第三号議案、13年度事業計 大に行われ親睦、意見交換 審議の結果、了承。 総会に引き続き、懇親会

> 交流の活性化 務 部 会

事業計画にのっとり、各学 部、全国会員との連携を図 るため、次のような活動を 総会で承認された13年度 会に委員を選出。

二学部の学生と各界先輩 策として各20万円寄贈し 学部、工学部への活動支援 なお、理工学部、生産工 会員の拡大。

も継続して開催することを

望む声が多く聞かれた。

学生との懇談会開催

じめざす

るため、各部会から総務部 と総務部会との意見交換会。 各部会との意志疎通を図 各ブロック担当者の決定 Bを迎え (詳細:5面学内 ニュース)、これからのコン 活発に取り交わされ、今後 った。学生との質疑応答も サルタント、建設業、官庁 談会を2つの会場(理工学 部、工学部)において開催 土木行政について講演を行 した。講師に各方面から0 日大土木会と学生との懇 2、土木の仕事は大部分が

た。

坑道は水没し、工事が

一九九四年

大出水事故を起こしまし た時、調査坑の掘削工事で 竜飛方の初代所長をしてい

現在に至る

1000年

れより反対に広く大事なこ

いう言葉もありますが、そ

とが見えてくるものです。

公共工事です。国民からの

存続できるか否かの危機で

工学博士

何者に求めるもの これからの土木技

若い土木技術者たちへ

アリング社長 横山

レー ルウェイエンジニ ばなりません。公共構造物 あります。 「これは俺が造ったのだ」 すから、使い勝手の良い、 という誇りを持てる幸せが もあります。それだけに はその時代の文明の象徴で 高い品質の物を安く造らね

「今のうちに何か後輩たち のお話が来たのでしょう。 け」ということで、私にこ の土木工学科へ入ってから の3世紀を生きて来ました。 でも55年が過ぎました。 土木技術者を目指して大學 ても、これがキー ポイント 信のある技術を持っている 者は万芸に通じる」という の言葉だけが未だに心に残 けないという専門技術を持 に役立つ言葉を残してお かってきます。専門バカと だなということが自然にわ と、専門でない領域におい 言葉がありますが、一つ自 っています。「一芸に秀でる くのアドバイスの中で、こ つこと」が大切です。 先輩から言われてきた多 この8月で75年間、4分 「これだけは誰にも負 気づくでしょう。 嘆かずに、むしろ「天が与 4 るようになりましたが、ま 的センスを持って設計され 今は土木構造物もかなり美 方は自分が一廻りも二廻り を乗り越えた時、きっと貴 えてくれた良いチャンス」 辛い目に逢うのだろう」と 多いと思います。そんな時 なことにぶちあたることが 間には、苦しいこと、困難 配慮が少ないと思います。 だ建築などに比べるとその ネルの坑門などを造ってき らねばなりません。私は若 も大きく成長しているのに と喜んで下さい。その困難 たことを反省しています。 高と、無骨な高架橋やトン い頃から合理的な設計が最 に「なぜ自分だけがこんな 私は41歳で青函トンネル これからも長い人生の 土木構造物も美しく造

横山 章氏:

使う公共の施設を造るので税金で、多くの人々が長く が大切。本で調べるのもよ らば、即座にそれを解明す あの苦しかった時代のお陰 れる、青函トンネルは掘る せてその出水を止め、危機 した。しかし皆で力を合わ るために行動を起こすこと ましょう。 疑問を持ったな と多くのことに疑問を持ち であると感謝しています。 4年間は悪戦苦闘の連続で 工のきっかけとなりまし 信となって、本トンネル着 れば大きな出水でも止めら を乗り越えた時、「 こうす し、先輩に聞くのもよいで したが、後で振り返る度 ことが出来る」と大きな自 今日の自分があるのは 本州の北端、竜飛での 「なぜこうなのか?」

さい。物事を自分の損得で 苦しい方の道を選んでくだ 先を歩むことになるでしょ 判断せずに、どちらが他人 左に行くか悩んだ時には、 は他の人より一歩も二歩も しょう。それによって貴方 将来貴方が右に行くか 会を得ました。 新潟県庁9階の窓から日

報

日本大學工学部土木工学科 ない人生を送れるでしょ イエンジニヤリング社長 ださい。そうすれば悔いの のためになるかで決めてく 九六二年 日本国有鉄道 九七九年 日本鉄道建設 九五〇年(昭和25年) 紫綬褒章受章 日本鉄道建設 フジタ副社 のまま放置出来ません。投 政の展開を目指しています 沿岸や佐渡の漁村が如何に 村の活力低下、過疎化をこ 成り立ちや、安全な食料自 ΙŹ 村の総合振興を柱に漁港行 漁船の乱獲、漁獲量や担い か。地域の課題や地域経営 生きるか、その為の個々の 資効率だけではなく、新潟 給を考えれば、水産業や漁 土保全、国防、地域社会の 難であります。しかし、国 す。水産物の安定供給、漁 大きな曲がり角にありま 手の減少、高齢化の進展等 とする本県の水産業も外国 が見えます。この海を舞台 本海が、そして故郷の佐渡 投資効果の点からも困 従来型の社会資本整備

岐阜工事局線増課長

日本海・佐渡の海から

新潟県農林水産部参事漁

市橋 拓三



をいただいているご縁で機 田理事らに随分お世話をか 主で、勉学の方は本会の木 漁村の振興についてご指導 坂井淳会長から、日頃漁港 けた事を思い出します。本 も、工科空手道部の稽古が うとしています。もっと からもうすぐ35年が過ぎよ お茶の水の校舎で学んで 全国漁港協会の

にとって、どのような社会 事竣工記念碑に、青山士

資本整備が必要か、各々の 漁港背後集落別に漁村ビジ 画に活かそうと考えていま 構想を作成し、次期長期計 ョンや佐渡マリンレジャー

ます。管内の、和島村と与 惨禍から救った、大河津分 水が日本海に注ぐ地点であ た、良寛ゆかりの地であり り、良寛が生まれ遷化し 務所は、越後平野を洪水の 私の前任地、与板土木事

歌碑が建っています。 になりにけり

規模の中で、今生きている 以上の年月と膨大な事業費 の投資規模で進めて、50年全てを満足するには、現在 人が利用出来る施設規模、 が必要です。限られた投資 本整備全体計画は如何に。 た。地域の将来像を基に、

何か、専門化が進む中、我 らわれることなく、地球規 々土木技術者は、部分にと 整備順位を考えてみまし 今、本当に必要な施策は

公団理事

九九三年

公団東京支社長

一九八二年

模の資源や環境などに思い が至る総合力が必要ではな 大河津分水自在堰補修工 先の建設界をめぐる動きは

そして「人類の為め、国の 長として、「土木技術者の 為め」と続けています。こ 信条」をまとめた青山は、 の清廉で最善を尽くす生き 土木学会の規約調査委員

板町を結ぶ県道に、良寛の

板両土木で管内の将来プラ の良寛の歌が公共社会資本に感謝する、約200年前 生を暮らす為の公共社会資 「塩の入りの 坂は名のみ し、他の地域を羨まず、一 で生まれ育ち、子育てを 揺り篭から墓場まで、地元 の里づくり」を作成しまし ン「岩船村上21計画」「良寛 整備の真を現しています。 平成7年以来、村上・与 萬代までに」峠道の改良 ゆく人偲べ

巻内

波はこれだけではありませ 定財源の見直しなど、卒業 いるのが実状です。しかし 変革と対応を迫られていま 験生の数と質の変化の厳し 志願者全入時代、等々の受 工系離れ、基礎学力低下、 大学は、18歳人口減少、理 全盛時代に比して半減して 学試験受験者数は20年前の す。多くの理工系学科の入 い波をかぶりながら様々な 交通工学科 教室主任日本大学 理工学部 社会 現下のわが国の理工系各 勝彦 る必要があります。こうし つあり本格化しています。 どの教育機関や卒業生の外 認定制度 (JABEE)、民 学内部の自己点検評価シス ずれの土木系学科もそれぞ 代の大きな変容の中で、い りますが、本学科では真の 八苦の苦難の道のりではあ た状況への対応は、実に厳 会認定技術者資格制度、な 間調査による国内研究機関 います。現在は、従前の大 れの特色が求められ、また まれています。こうした時 革が達成される方向にある しいものがあり現状は四苦 しい専門教育と技術者育成 今後は、将来を見据えた新 部評価の形態に移行されつ テムから、日本技術者教育 教育と研究の質が問われて へのさらなる改良を模索す ランキングの公表、土木学

「万象に天意を覚る者は幸 当に高遠を存し」と最後は 気と情であると教えていま

ていると確信しておりま ば の気と情を基に視野を広く は、大きな夢と希望が待っ 持つ総合力、企画力を磨け 大きな時代潮流にも、こ 土木技術者の未来に

平成13年9月4日

様を忘れていないでしょう

社会交通工学科

たが、交通技術分野のパイ

群の履修

で基礎的かつ系統的な科目 ・緩やかなコー ス制の導入

かってないほどの荒波にも

001年4月に、交通土木 ーズに対応し、本学科は2 位置づけられました。 は交通バリアフリー こうした社会の変化とこ

තූ

テムも稼動し始めていまム) など、新しい交通シス 設づくりが重要課題として 行され、福祉社会の交通施 ります。2000年11月に 高まっています。 社会シス 学際的立場で見直す機運が TS(高度道路交通システ た、情報化社会に向けたI ムの交通への応用などであ テムとそれを構成する人間 通」は新たな視点を加えた への注目、高度情報システ 21世紀を迎えた今、「交 法が施 ま 教養科目、基礎教育科目、 ユニー クさを活用 来する特化した専門学科の ョン力、国際共通語の習

つ歓迎し、前向きの改善を その一端を紹介させていた 進めていますので、ここに

(昭和42年理工・土木)

諸葛亮孔明は「夫れ志は

学科」と名称を変更しまし 究する、わが国で唯一のユ かわる総合技術を教育・研 通施設の建設から運用にか りして、社会基盤である交 ました。時代の要請を先取 す。この時代はモータリゼ 済・産業が急速な発展の兆 と、学科創立は日本の です。のちに「交通土木工 科」として設置されたわけ – ションの幕開けでもあり しを見せつつあった196 一一クな学科「交通工学 本学科の歴史を顧みます (昭和36)年でありま

理工学部全体でもカリキュ

コース (社会・環境系群)

あります (なお、日本大学 骨子は以下に示すとおりで 始しています。検討方針の リキュラム編成の検討を開 を養成するための新たな力 に貢献し将来を担う技術者

育成を目指し、社会に貢献 を身につけた交通技術者の 高度な専門技術と広い知見 社会のあるべき姿を考え、 してきました。 の交通・都市・環境および な教育・研究を続け、将来 オニアとして、常に先進的

・自己啓発能力、技術者倫

導入教育の充実

・国際性 (コミュニケーシ 理、考える能力の育成

ドに環境・福祉・都市・公 機的結合 ・「交通」というキーワー を含めたリー ダー 教育の有 ・実務技術者教育と大学院

の継承の上に学科創設に由 ・日大土木系の伝統と実績 共・情報化・国際性を付加 快適な交通体系を構築す のあり方を提案する。

るように配備しています。 専門性を高めることができ 配置した各コースにおいて 得の後、下記の3つ系群に 基礎的な必修専門科目の修 学生の履修科目は、一般 も日大土木系の先達各位の きました。最後に、今後と 略ながら述べさせていただ ご支援とご指導を賜ります ム構成の考え方について概 新しく検討中のカリキュラ に至った状況と経緯および 以上、当学科が改名する

(昭和42年理工・交通)

ものと厳粛に受けとめ、

工学科から社会交通工学科

る専門科目の履修に際し

当学科の特色であるA

に学科名を変更しました(

科の伝統を継承するととも and Socio Technology)° nsportation Engineering 語名は Depart ment of Tra こ、学問領域を広げて世界 うに構成している点にあり 対応できるようにこの幅広 可能にした上で、土木技術 者資格や公務員試験などに またはBの科目群の選択が い土木系科目を習得するよ

学系群) B:ソシオテクノロジー ン・コース (交通計画・工 A:トランスポーテーショ

ます (ここで科目名は割

群 ー・コース (社会基盤系 C:インフラストラクチャ 社会交通工学科となっ

教育方針を踏まえていま

通方針およびJABEEの るところであり、学部の共 ラム改定の検討を進めてい

指し、だれでも安心して移 齢者や障害者が、健常者と 下の例を挙げることができ たな領域分野としては、以 え、学科が取り組むべき新 リアフリー の社会造りを目 ルデザインを基調としたバ て、これまでの分野に加 緒に暮らせるユニバーサ 人にやさしい交通 :

科目の弾力的運用

設置科目の縮減と学際的

・基礎学力向上と専門への

動できる交通空間を創造す ノロジーを駆使し、安全で 報・通信などの新しいテク ネルギー を大切にする交通 ・安全で快適な交通 :情 ・暮らしと環境を守る交通 :環境負荷が小さく、エ

う意味は、各学生の希望す ※緩やかな、コース制とい よう切にお願い申し上げま

はじ

め

(3)第2号 では、著者の受け止め方を がまとめた文献1)および2) を参照して戴きたい。ここ 員会の委員長および幹事長 理事でもあり、この創設委

の背景

学会としての考え方は、

のものを用いていることを るので、8月20日時点 資格制度導

の手直しが頻繁に行なわれ なお、用 児語・語 句

いえる。 自主管理を目指した試みと の背景を学会が自主規制、 の分化と土木系学科の乱立

ップレベルにあるわが国の 流れに対抗し、世界のト

れを社会に対し責任を持っ る土木技術者を評価し、こ (2) 土木技術者資格と名 (仮称)

特別上級技術者 (土 録後、 年間とする。

の第4部の代表幹事として 技術者」は本年度からスタ 者はこの制度の創設委員会 木学会の理事会で「土木学 度の紹介と若干の経緯を報 参画していたので、資格制 2001年5月19日 トすることになった。著 後述する「特別上級 制度が承認

శ్ఠ

術の本質が疑われることに科で判断するので、土木技時、専門外の人は、卒業学野の空洞化である。その

]性が必要なることを認識

つが技術者資格である。 こ 業務上あるいはそれぞれ国 ものを持ち出し、そのひと の勢力拡大に国際基準なる 国際化が進み、

技術者資格の概要 (1)資格制度設立の目的

論理観と専門的能力を有す 格制度を創設する目的は、 土木学会に土木技術者資

5年以上の実務経験 資格の有効期限は5 ていること。 一つ下位の資格を登

土木の主要な分野を構成し

なる。このような土木工学 ゆる土木工学という専門分 ケースが生じている。いわ 術コアの修得が十分でない

度化・多様化が進むほど専

土木学会認定

(JABEE) された大学 2級技術者は、

を修了すること。または、 を有するか大学院修士課程 それと同等であること。

卒業後2年以上の実務経験

を有していることと経験を としての必要な範囲の知識 し、専門分野を設定する。 と将来の技術者像を考慮 る。プロジェクトリーダー 現在の技術者の業務範囲

められることではない。

/3の削減をするか、

決

会

織基盤社会から個人基盤社 てきている。すなわち、組 向転換せざるを得なくなっ 方式から競争市場方式に方



業生が約8000人、関連 を減らすのか、各大学とも 00人に削減することを提 人である。先進国の人口比 案しているが、どこの大学 業種への就職が約5000 00人が適正といわれて る。土木学会では、50

るために、従来の護送船団

高田

深化したことで、土木の技大は、その専門が細分化、 技術のレベルも問われてい もある。その一方で、土木 出すればよいという考え方 修得し、あらゆる分野に進 さらに、土木分野の拡 方、土木工学の学問を 野の認定が必要となってく もに多様化・総合化した分 杰 した空洞化に対応するた 会への変換である。そのう 出発時点は原籍 (土 学問が高度化して前述 卒業後時間の経緯とと の明確化が必要とな

規制緩和が進み、分野の高 景から資格制度は誕生し、 み述べたが、このような背 紙数の関係で主たる点の する。

た業務を遂行する能力を有 基礎知識を有し、与えられ 土木技術者として必要な

会会員であること。 (3)資格要件 特別上級技術者は、 資格登録時に土木学 認する。

資格登録時に土木学会フェ ロー会員であること。 上級技術者

野とこれらを複数組み合われ級技術者で設定した分 せた「総合」分野を設定す 必要な時期に設定す の 名

認

資格分野の内容(資格要件及び技術分野)

【資格要件】社会基盤施設の整備や小業の運営を責任を持って実施したり、判断することのできる総合的な能力を有し ていること。 【技術分野】

工・維持管理に関する総合的な知識と経験を有しているとともは、主分野以外の分野に関する専門的な知識を有していること。 【技術分野】コンクリート構造、組構造、合成構造、複合構造、本構造、複合材料など

|| 上質試験、基礎構造物、地下構造物、地盤改良等の計画、設計、施工に関する知識や経験を有 しているとともに、計測やその結果の評価、地盤・岩盤・基礎に採わる構造物の維持管理等を行う能力を 存していること。 【技術分野】地盤調査、上質試験、土構造物、基礎構造物、地下構造物、地盤改良、地下水、地震防災、地盤環境など

のできる能力を有しているとともに、都市・流域の開発や環境整備、ライフライン・エネルギー施設など の都市基盤施設の整備・維持管理、水環境の保全・整備、災害を含む流域・都円管理、河川・海岸整備事 業等の知識を行していること。 【技術分野】河上計画・斉城計画、都市計画、ライフライン・エネルギー施設、河上、海岸、海洋、環境保全、環境管 理、防災など

▼※ 週 【資格宴件】交通・運輸に係わる道路、鉄道、港湾、空港及び駐車場・ターミナル等の施設を連携して捉え、ロジスティクスや店報通信システムなどの広汎な基礎知識を備えて、計画、整備、維持管理等を行うことのできる能力を行していること。 【技術分野】交通・運輸計画、ロジスティクス、情報通信システム、道路交通システム、道路、鉄道、鉄湾、空港など

●調査・計画 ■瞬葉・紅圏 【資格要件】土木事業を推進するに当たっての計画の立て方、その手法、その支えとなる調査・探索及び計価、あるい は住民参加・指報公別などの計画技術を有しているとともに、社会経済分析評価、需要予測、景観計画、 土木遺産調査、リモートセンシング、GIS等に関する知識を有していること。 【技術分野】計画、調査、評価、景観、土木史、土木遺産調査など。

【技術分野】設計基準(規準)、設計法、設計論、荷重・外力、解析法、シミュレーション技術、設計支援技術など ●施工・マネジメント 【資格要件】建設現場における施工に関する技術的判断や建設事業の運営に関する技術的判断を行うことのできる能力 を有しているとともに、主事計画、施工管理(日本管理)、コスト管理、「理管理、安全管理、環境管理 等)、リスケマネジメント、積算、人札・契約、CALS等に関する知識を有していること。 【技術分野】建設機械、工事管理、積算、人札・契約管理、技術評価、法令・基準など

●メンテナンス 【資格要件】トンネル、ダム、橋梁等の上木構造物のメンテナンスならびにそれらの支援技術に関する知識や経験を存 しているとともに、非破壊検査、モニタリング、健全度評価下法、補修技術、ライフサイクルコスト評価等に関する知識を存していること。 【技術分野】維持管理手法、補修・補強技術、検査手法、劣化度予測・評価技術など

【資格要件】都市域などの人工空間、社会基盤施設ならびに自然斜面などの自然空間の安全性向上と防災・保全、なら びにそれらへの支援技術に関する知識、経験を存しているとこもに、耐震・耐風・治水・治山技術、地震・火山防災、上砂防災、健全度評価、余寿命予測、輔修・河原技術、更新計画、ライフサイクルマネジメント、災害・事故リスクの評価等の知識を有していること。 【技術分野)耐震・耐風・治水、治土技能、健全度評価、維持・補修・補強技術、災害・事故リスクの評価など

●環 境 ■環 現 【資格要件】上下水道競談やシステムの設計と管理、晩棄物の管理と処理・処分システム、生態系の保全、水環境の保 令、大気環境の保全、上境環境の保全、騒音と振動の防止、環境影響評価、ライブサイクルアセスメント 等の知識と経験を有していること。 【技術分野】環境保全、環境管理、環境システム、上下水道、用排水システム、産棄物な五

(平成13年7月31日一部修正)

理工学部社会交通工学科 卩 質格 制度の紹介 バル化へも対応

課題に対して自己

記述式問題

 \bigcirc

 \circ

することも重要である。

会である土木学会が養成機 のためには、土木技術の学

S C E

面接試験

0

 \bigcirc

×

X

sional Civil Engineer (¬

木学会) Executive Profes

審査方法

ており、

かつ、

これからは、これを維持す 世界の経済と闘い、一定の ければならない。 そのメッ 教育機関と呼応していかな と相互認定するなどの相乗 ると同時に、他の資格制度 高校・専門学校などの専門 経済的勝利を収めてきた。 歩で、業界が一丸となって りが可能となる。 セージとして位置づけられ 第3は、わが国が独立独 の責任で適切な指導・助 できる能力を有する。 めて高度な専門知識と経験 総合的知見を有するか、 土木技術に関する広範な

知識を有するか、高度な複 を指導監督し、与えられ を有し、自己の責任で部下 できる能力を有する。 の教訓などについても提言 事業の遂行はもちろん事後 数の専門分野の知識と経験 <u>≤</u>. 土木技術に関する総合的 Senior Professional Engineer(コのしm) 級技術者 (土木学 C

書類審查

 \bigcirc

 \bigcirc

 \circ

0

を有し、自己の判断で業務 gineer (¬ИUШ) 少なくとも1つの専門性 Professional Civil 級技術者 (土木学 Ш

《们) Associate Professinal を遂行する能力を有する。 a vil Engineer(¬ท∪ 2級技術者 (土木学

設定の考え方は、

を設定する。上級技術者の 表する技術者であること確うち、特に優れた日本を代 次のとお

上級技術者と同様の分野 特別上級技術者 1のとおりである。その

術分野で内容を示すと、 術分野で内容を示すと、表め11分野で、資格要件と技 資格分野は、「総合」

2級技術者 4、実施に向けて

を実施するために図

B

土木学会 Vol. 85, No.

格

資

特别上級技術者

上級技術者

1級技術者

行能力を有していることを 土木学会認定技術者資

て必要な基礎知識と業務遂 上を習し、土木技術者とし 土木教育内容の約2/3以 および大学院で提供される තු (C&D)の必要性を訴え

村

術者資格の創設と継続教育 2) 池田駿介:土木学会技

資格の認定を土木学会で、 土木学会誌 Vd.85, No.1,p. 甫: 土木技術

選択問題

×

0

0

と、経験を確認する。

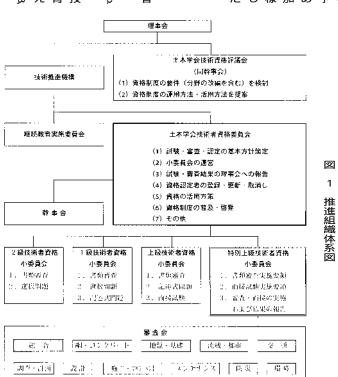
2級技術者 分野を設定しない。

応用知識を有していること て対応していって戴きた にはその動向に十分注意しえられるので、会員の皆様 り、実施しながら修正が加定である。手探りの面もあ (昭和41年理工・交通)

識を含むある範囲の基礎・ 行するために必要な周辺知設定する。自己の業務を遂 ることが明確に説明できる 展していける (または発展 させていくべき) 分野であ ものをひとつの分野として

将来的に発

も10月までに設置される予示すような組織が、遅くと



このPFIに着目し、導入に

が良く理解されていなかっ Iがどういっ たものなのか かしながら当時はまだ、PF 向けた動きが活発化した。し

といっていいほど経験して というような、これまで全く

特別寄稿 代表取締役専務前田建設工業

川嶋 信義

社会資本整備ができる。打ち っても民間が全て資金を出 出の小槌〟のように考えてい すれば、どのような事業であ たこともあり、PFIを導入 た自治体も多かったのは事 公共は何の負担もせずに

間の資金やノウハウを活用 建設、維持管理及び運営に民 エとは、公共施設等の設計、 権下において誕生したと言 スの提供を行う事業手法で、 することにより、公共サービ を集めてきた感がある。PF つに国家公務員宿舎等の整 1992年英国の保守党政 あげられ、PFIが再び注目 Finance Initiative) 導入が トを発表した。その中のひと |次の都市再生プロジェク わが国では97年11月に政 8月末、都市再生本部が第 への P F H (Private 利用施設 (プール)、コンテ 用発電、大学、美術館、余熱 む)を見てみると、浄水場常 判断により抽出した)になっ なものを含めて筆者独自の 当事業についてはPFI的 対して、件数は26件(注:該 ど非常に広範な事業内容に 事業(まだ事業者が決定して であろうか。 現在まで、PF Iの現状をどう評価すべき 等の整備等の促進に関する 金等の活用による公共施設 実である。 いない審査途中の事業を含 I事業として公募され、実際 した今、わが国におけるPF 99年9月のPFI法(民間資 ナターミナル施設、駐車場な 法律)施行から約2年が経過 に民間企業が応募を行った

社をはじめとする経済界は 造改革の一環として公共事 Iが本格的にクロー ズアッ い公共事業手法としてPF 備を行っていくための新し おいて、厳しい財政事情の中 府自民党の緊急経済対策に にある地方自治体は一斉に もとより、危機的な財政状況 出されていたために、建設会 で15%削減することが打ち 業費が97年度からの3年間 ブされた。橋本政権の財政構 にあって、着実に社会資本整 けでなく、完成後長期間にわ 2年で26件は極めて小さい しての安全性やファイナン や総コスト、さらには事業と たる運営や維持管理の内容 ら、PFIが建物の建設費だ 数かも知れない。しかしなが 業の件数全体からみれば、約 年間に発注される公共事

等を全て契約に落とし込む 評価し、想定されうるリスク スの確実性などを総合的に う するため、技術開発や体制・ それらの課題に対して対処 解決されるべき課題がある。 情勢の中で、環境・エネルギ システムが整備されると思 コスト縮減等、将来に向けて 維持管理、構造物の耐久性、 問題、社会資本ストックの 現在、経済・財政の厳しい

思われます。

確かに、今までと同じこと

は、逆風が吹いているように

最近、道路公団を中心とし

脱ダム宣言と、土木業界に

しかし、私の業務範囲であ

entと呼ばれるこの企画 ed ge Managen

> かしながら、これらの逆風を てしまうことと思います。し

プラス思考で考えれば、今ま

生活で得たものは何なのか

ことでも良いから、君が大学 ない」という言葉だ。 どんな だ、あいつの下では働きたく ただ勉強だけができるヤツ

をするなど、早い時期に自分 訪問するか、短期アルバイト するためにも、先輩等を直接

自身の足で調べ、確かめてい

そんな中で、KMなる企画

変革期の時代に取り残され をしていたままでは、この大

階としては着実に実績を重 こなかった事業形態で公共 に評価するのが妥当と思わ ねてきているとポジティブ とを考慮すると、導入初期段 が作り上げる必要があるこ

の策定やさらにその前段階 Jの他、公募前の実施方針

て実に様々である。そして、

は、イントラネットを通じて

ドとして、この26事業が建設 可能性を発揮するフィール えられる。そういった新たな

最近思うこと

建設会社に入社して、はや

ている。さらに、ISO規格、 けている状況であると感じ のスピードを懸命に追いか

多数に展開し、会社全体の知

個人の知識を社内の不特定

だろう? 早く景気が良く 革で、 なることを祈るだけである。 ある。今後どうなっていくの いるのは建設業界ばかりで の財政悪化の中での構造改 り、毎日ストレスが溜まって を考えると不安ばかりが募 る り、年々年収が減ってきてい 景気はあまり良くはなかっ の崩壊後であり建設業界の 々が入社した当時はバブル 9年がたとうとしている。我 いくばかりである。国や地方 たが、最近は一段とひどくな 妻子を抱え、将来のこと (建設会社勤務、 毎日、新聞を賑わせて 35 歳) 事規模が小さくなる中で、会 いる。工事案件が減少し、工 ಶ್ಠ 事成績評価、経営環境からの ていこうと思う。 道に明るく業務に精を出し 様なキーワー ドが考えられ 企業としての利益確保等、多 教育、現場での不具合対応、 配置職員不足、若手技術者の 事の入札・契約の適正化、 建設CALS/EC、公共工 いし、仲間(組織)と共に地 まあ、一人では何も出来な 大手ゼネコンに勤務して

が打ち出された。Knowl ない、卑怯者である。 し、社内の他の人間には教え を評価する人間にだけ展開 つ。自分の知識・経験を自分 を第一に考える人間が目立 向上を考えずに、自分の出世 っている。そんな中、会社の

る施工側では、その技術革新

証左であろう。 Iが確実に拡がりつつある は枚挙にいとまがない。PF 性調査を行っている自治体

社、設計事務所、メーカーか 象となる事業の内容に応じ らスポー ツ関連会社など、対 をはじめとして、リース会 及ぶ。業種は建設会社、商社 ウントしても約280社に 表されているものだけをカ 行った企業数は、企業名が公 あるいはグループで応募を ば、先の26事業に対して単独 方、民間企業側を見れ

> まとめて参画を図っている。 企業として各種企業をとり 多くの場合、建設会社が代表

にあたるPFIの実現可能

業の能力を示す試金石と考 っては、PFIは総合的な企 ンを提示していくことが求 あるが、今後、設計、施工だ められている建設会社にと たトー タルなソリュー ショ イナンスや運営などといっ けでなく、顧客に対してファ 近の目標があるのは確かで か、施工高の確保といった直 建設市場の縮小が続くな 善していくしかない。ただ主 う。それらを解決するには唯 では間違いない事実であろ 々な課題があることも一方 の事業内容を精査すれば様 出したPFIであるが、個々 て2点提起しておきたい。 な課題として、ここでは敢え 業で試行錯誤を重ねつつ改 一の答は無く、より多くの事 このような第一歩を踏み

る一般競争入札の問題であ

なインパクトを与えた意味 業界にとって数以上の大き があると考える。

ひとつは事業者選定に係

る。国のガイドラインでは民

する場合に価格以外の条件 間事業者の創意工夫を評価 を含めて選定する総合評価 一般競争入札の適用を可能

交渉を行い、万一、優先交渉 権者(落札者)との交渉が不 範かつ詳細な契約を結ぶに 運営、維持管理などを含む広 としている。 しかし、一般競

内容で契約を結ぶことが原 則であるが、数十年にわたる 争である以上、入札時の契約

な、PFIに対応した入札契 算性を確保しようとすると 間事業者の場合は利益とみ 移管されるにも関わらず、民 定され、最終的には公共側に の使用がほとんど公共に限 がかからないのに対し、建物 ようにこれを行っても税金 み立てを行うが、公共が同じ 共側から受け取る費用の中 ある。例えば、通常PFI事 ため、民間事業者が一定の採 なされて税金がかかる。この から建物の長期修繕費の積 業において民間事業者は、公 もう一点は、税制の問題で

との交渉も可能となるよう 調に終わった場合は次点者 は、事業者と発注者が綿密に

までの考え方を見直す時期 すが、公共事業に対するこれ られる内容のものが多いで 約制度を確立する必要があ 公共が従来型で整備するよ に向かおうとしているのか 大変興味のあるところです。 (是非、私大土木の雄として

での悪い体質を改善したり、

より効率的な企業経営の確

め、それを迅速に実践・行動 要なことと思います。従来の 果としてプラスのことと思 が造られるわけですから、結 っては、安くて悪くないもの ていることは何なのか見極 発想にとらわれず、要求され まで以上に優秀な人材が、必 います。それ故、企業では、今 が必要で、それは、社会にと 業が生き残るためには、努力 立、新工法・手法の提案等、企 り、PFIなどの手法による 業への参画が活発になった であり、大学などの教育機関 響を受けるのは土木の分野 地はありません。そこで、こ いるのかもしれません。 にも既にその影響が現れて のような状況下で大きな影 にきていることは疑いの余

拡 声器

(建設会社勤務、

45 歳)

益になるか分からないから

でもよいのだ。何が会社の利 ラーメン屋の紹介まで、なん

である。建設会社の社員みん

ネットアドレスや、美味しい 日常生活に役立つインター

定財源の見直し、長野県では なが、美味しいラーメン屋を 知っているなんて、興味深い 最近では、国による道路特 30 歳) はないかと個人的には思っ 人です。その瞬間瞬間を大切 ています。私も企業で働く一 に移せる人材が必要なので にし、日々頑張ってきたいと

事評価がますます厳しくな

社経営者は社員を減らし、人

ではないか。

(大手ゼネコン勤務、

(電力会社勤務、28歳)

がこれまで以上に重要にな

ることは想像に難くありま

大学の授業内容や教育方針

強くなると思われますので 学に即戦力を求める傾向が くなると同時に企業では大 では対応できないものが多

映していない悪意すら感じ 対する指摘などは実態を反 がマスコミで頻繁に取り上 公共投資に対する批判など 財源の見直しなどの従来の げられています。道路公団に た特殊法人改革や道路特定 し合ってゆかなければなら 検討をして、どのような方向 校である日大がどのような ない時ですが、個人的には母 かりませんし、皆で知恵を出 渡期であり誰も行き先がわ このような中で、現在は過

は、「あいつは大卒だけど、

事業展開が増えてゆくこと や、環境保護に対する関心の 今後、NPOによる公共事 氏のなかではすでに検討済 も、このようなことは先輩諸 きと考えています。もっと でも検討し、広報してゆくべ 性などについても当土木会 木分野)としての課題や方向 みかもしれませんが。以上、 ね。) 21世紀の大学 (特に土 を多く排出してほしいです 再び優秀で特色のある人材

事でも良い。建設技術に関す

る事を始め、株に関する事、

も人事評価の一環になる。K

Mに登録する知識はどんな

登録した社員は、1ナレッジ

る。KMをイントラネットに 識にしようとするものであ

という単位で評価され、これ

備などなどこれまでの知識 の移行のためのインフラ整 高まりと対応、高齢化社会へ 日ごろ抱いていることを述 べさせてもらいました。 (日本道路公団勤務、 後輩諸君に期待すること

46 歳

学歴に関係無く、高卒、大卒 持っている輝きについてで が一つある。それは各個人が が入り混じっ て同じテーブ ある。私の職場は基本的には ルで働いている。職場で高卒 私は常に考えていること

の年配者達から良く聞くの 思う。

ら自分自身で何かを学んで は、「問題意識をもって何か り、本気で取組んで欲しいと の手段として最良の場であ である。卒業研究はそのため いく」というプロセスが必要 に打ち込む、没頭してそこか ばベストかもしれないが、要 由です。 e 原稿の受付

るなら、そのことを明らかに 今、将来について悩んでい にてお気軽にお寄せ下さい。 随時受け付けております。 日大土木会広報部会 原稿送付先 mailまたはFAX

nihon uac.jp e mail: doboku@d vil. cst.

fax.03 3293 報担当宛 性があってもPFIが選択 って、運営等において民間の ノウハウが活かされる可能 FMの実現が困難になる。よ りも財政支出が多くなり、> 極的な態度により、スタート 限移譲を危惧するものの消

今こそ一層求められている。 であろう。そのためには、現 その意味で中長期的に見れ 方はわが国に求められてい 常に現状を見直し、変えてい 行の枠組みにこだわらずに シェアを占める分野になる る構造改革のひとつであり、 叫ばれる今日、PFIの考え 当初は必ずしも順調ではな く姿勢が公共・民間ともに、 ば、市場においてある一定の 構造改革がひときわ高く

でも、PFIを一般の事業と うことになる。こういった所 行ったとしても民間事業者

されないか、たとえPFIで

の事業性を必要以上に損な

来、私達社会人の仲間になる 胸に問うて欲しい。近い将 在学中にしっかりと自分の くことが得策である。 42 歳) (建設コンサルタント勤務)

(昭和41年 理工・土木)

偏った考え方や民間への権

の場合でも、PFIに対する 国のPFIではあるが、英国 ところである。

様々な課題を抱えるわが

特別な税制措置が望まれる は異なるものとして捉えた

の方からの生の声を紹介し 拡声器&喫茶室では、会員 原稿募集中!

ている。

きに、私達は何よりも期待し 君の、君だけが持っている輝

(地方公共団体勤務、27歳)

あたっては、今やどこの会社 いる。そのためには、結局の 人物 (本人)評価が優先して も余裕などなく、最終的には コンサルタントの採用に 思い、職場で感じているこ と、あるいは本会への要望・ 意見等々をお待ちしており 拡声器では、土木業界への

業研究が最短だろうと思う。 大学院で学べる機会があれ である。その手法としては卒 ておくこと」が何よりも必要 ところ 自分自身を成長させ と一息付けるような明るい 話題、楽しい話題をお待ちし ております。 また、喫茶室では、ちょっ

但し、一言だけでもそれ以上 でも受け付けます。表現は自 30字程度を基本とします。 国際産業技術・ビジネス育成 簡易魚道を考案し、日本大学 能となる魚道の研究を進め、 な水生生物の遡上・降河が可

とになると安田助教授は考 な水生生物が保全されるこ

の生物個体数の維持に欠か カニは幼生を多く孵化し、他

賞 (優秀論文・学術部門) が

グループに下水道協会有効

おいても通し回遊性の多様 る既設の河川横断構造物に 水・利水の機能を果たしてい 属する安田陽一助教授は治

うことは、もともとその河川

物の生態系を保全するとい 河川における多様な水生生

数が維持されて初めて多様

に生息する水生生物の個体

物の固体数が激減してしま

特に通し回遊性のエビ、

時総会において、工学部研究

た(社)下水道協会第38回定

去る6月29日に開催され

績に対し授与されるもので、

ات

一下水道協会有効賞

一学部研究グル

プ

なり、海と川を行き来する生 生生物が遡上・降河できなく 構造物の構造によっては水 が設置されている。この横断 理工学部土木工学科に所

した(特許出願番号:特願2

伴った床固め工・ダムなど)

に関する特許申請

多摩川調布堰での実験を通じて

その簡易魚道の特許を出願 力の下で2001年6月に

いる。このような性質を持つ

によって遡上・降河できなく そのエビ、カニが横断構造物

に寄与すると認められる功

本賞は、下水道の整備促進

海と川を行き来するものが えている。水生生物の中には

980年頃から現在に至る

理工学土木工学科の塩尻 塩尻弘雄教授、平成12年度 工木学会賞論文賞を受賞

論文賞を授与された。 から、平成12年度土木学会賞 弘雄教授が、(社) 土木学会 受賞論文は、土木学会論文 6 4 0 / 2 0

力中央研究所勤務時代の1 ョン」である。塩尻教授は、電 次元地震応答シミュレーシ を考慮した重力式ダムの三 「ダム 岩盤 貯水の連成 00年1月号に掲載された、

まで、ダムの動的解析プログ ラム開発を進めて来られた。

しかしながら、遊泳魚

ユレーション解析を行った 地震観測記録についてシミ (関連記事6ページ) 結果をまとめたものである。 重力式コンクリートダムの 庫県南部地震における一庫 今回の論文は、1995年兵

ダム解析モデル 時期(=) 実測と解析の比較

局が管理している調布堰(第

番目の河川横断構造物)が

業ばかりでなく河川利用者 が現状である。アユは内水産 によって捕食されやすいの いるアユは鳥や他の魚など の結果、そこに集まってきて

13km上流側に東京都水道

っている。多摩川の河口から った底生魚類の遡上も始ま

ホリ、ゴクラクハゼなどとい

堰下流に溜まってしまう。そ

上しようとしているが、固定

がない。固定堰から越流する 奈川県側の固定堰には魚道 ある。この堰の東京都側には 魚道が整備されているが、神

安田陽一助教授

多様な水生生物の遡上

降河可能な簡易魚道

河川横断構造物 (堰・落差を ゼ、ヨシノボリなどといった 通し回遊性生物である。河川 生物が海と川を行き来する ビ、ヌマチチブ、ゴクラクハ には利水・治水を目的とした モクズガニ、ミナミテナガエ と呼び、アユ、マルタウグイ、 水生生物を通し回遊性生物 物が多数集まりやすい状態 生魚類は遡上・降河が可能で エビ、カニといった甲殻類、 定堰の越流斜面を利用して るため、多くの種類の水生生 び水の効果をもたらしてい 流れが水生生物にとって呼 ハゼ、ウナギなどといった底 になっている。幸いにも、固

生物環境に大きな影響を与 スジエビモドキ、テナガエビ どといった遊泳魚類が遡上 川ではアユ、マルタウグイな 4月から6月にかけて、多摩 えることになってしまう。 生物全体の生態系が乱され、 なると、河川に生息する水生 などといった甲殻類、ヨシノ してくる。また、モクズガニ、 ある。 れが速いために、大規模な出 定堰から数多くのアユが遡 とも言われ、神奈川県側の固 類にとって固定堰からの流 くる数は年間約120万匹 い。アユが河口から遡上して ては遡上することができな 差が小さくなる場合を除い 水によって堰上・下流の水位



芭蕉の奥の細道の始まりの 地として有名な「白河の関! 部学生を含めて34名であり、 た。 参加者は一般市民、工学 3日にまず見学会を実施し ムより構成されており、8月 主催で見学会とシンポジウ 土木学会東北支部の共同 この公開講座は工学部と

を行った。

びパネルディ スカッション

所等の講師を交え、講演およ 通省、郡山市、郡山青年会議

魚道水際を遡上す るエビ 座を開催した。

れたものである。 下水道協会誌への発表論文 から優秀論文として選考さ ナル設計 (株))、佐藤洋一 (工学部専任講師)、黒澤幸 受賞論文は、高橋幸彦(H 中)、松本順一郎 (元工学部 工学研究科博士課程在学 道協会誌2000 川中流域の窒素系自浄作用 教授)の6氏による「都市河 に関する基礎的研究」(下水 V o 1. 37 pp129

4 5

であり、多くの人が望んでい 布堰の神奈川県側からもア 殖可能な環境が必要である。 めには広域に渡って自然繁 ることでもある。 ユが遡上できる工夫が必要 て生存率を高めるために調 また、アユの遡上数を増やし 期のみ魚道を水際に設置し、

堰に設置された魚道

くもアユが遡上し1日で遡 匹も遡上できない状況から の遡上を可能にするため、幅 堰の神奈川県側からもアユ 態系保全を目的として、調布 道の有効性を確認した。安田 1万8千匹にも達し、簡易魚 上完了したアユの総数が約 道を設置した。その結果、1 接合部 (34%の勾配)、すな 堰の越流面と河岸斜面との 1時間で最高3500匹近 わち水際に考案した簡易魚 川に生息する水生生物の生 (写真参照)を考案し、固定 そこで、安田助教授は多摩 長さ6mの簡易魚道 という。 くい工夫等がなされている

助教授によると、この簡易魚

士卒・オリジナル設計 (株)・ 中村玄正 (工学部教授)、牧 卒・西原環境衛生研究所)、 二(H9年工学研究科修士 ノ瀬統(H2年工学研究科修 である。 部の有効性を検証したもの 浄作用に関わる河川よどみ 活性評価によって窒素系自 域における硝化・脱窒細菌の 賞者であった松本順一郎氏 を除く5氏について、賞の授 143)で、阿武隈川中流 なお、今回は、同賞の既受

土木会が学生 をサポー

卜

工学部50周年記念館会場

日時:平成13年11月30

参加者:170名

アユの個体数を維持するた

道の基本的な考えは遡上時

籠によってプールを形成さ 平水時の流量変化に対応し、 迅速に遡上可能な状況を作 魚道内に住み着くことなく、 た、魚が休息可能なように蛇 り出すことであるという。ま 、魚道内の流れの一部が蛇 各方面からOBを講師とし る官庁土木行政をテーマに 談会が、2つの会場で開催 将来、新たな展開を向かえ された。 これからのコンサ ルタント、建設業の現状と 日大土木会と学生との懇

専務理事

曽我部 博

日本大学学生部長

教 授

日本風力開発(株)

顧問

(社)建設コンサルタンツ

会参与

(社)建設コンサルタンツ協

司会:パルテムSZ協会

司会:日本大学工学部教授

日時:平成13年11月9日 理工学部駿河台会場 て迎え、就職を控えた学生 参加者:105名 にとって貴重な会となった。

清水建設 (株) 副支店長

三好 敬直 協会参与

飛島建設 (株) 副本部長

三好 敬直

正木 浩太郎

転の強い流れが形成されに 籠内を透過し、プール内に回

日本下水道事業団 理事

横山博一

大成建設 (株) 営業部長

道路の過去から未来へ、 木の日 工学部で公開講座開催 記念が福島の

広く市民に紹介する公開講 は未来の道路交通について 去から現在への変遷、さらに と題して、福島県の道路の過 島の道路の過去から未来へ〟 木の日」記念行事として、『福 工学部では、今年度の「土 に、東北自動車道、磐越自動 ついて説明を受けるととも を見学し、福島の道の歴史に

テムETCのデモを実際に を見学した。さらには今年秋 グルハイウェイ」の建設現場 車道および福島空港を結ぶ 度道路交通システムITS 設館を見学して、次世代の高 ている福島未来博21世紀建 体験し、最後に現在開催され 速道路の自動料金収受シス 地域高規格道路 トライアン から全国的に供用される高

> の道路交通について、国土交 いて知識を深めながら、未来

県における道路の歴史につ

当部長 ウムを開催した。当日は福島 未来へ」のテーマでシンポジ 不動建設 (株) 顧問 西松建設 (株)部長 佐伯 新井 弘文 内山節 西松 好郎 謹吾

いて 福島の道路の過去から について理解を深めた。 東京都下水道局技術開発担 11月17日には工学部にお 会計検査院 技術参事官 (関連記事:一面に掲載)

周 年 わだちの会設立35 学科創設40周年 記念事業

同窓会「わだちの会」におい 通工学科は本年4月より交 通土木工学科から名称変更 方面で活躍している。 了生を含む)を超え、関係各 000名(全37期、大学院修 とが出来た。卒業生は約5、 ても設立35周年を迎えるこ して創立以来40周年を迎え、 1961年に交通工学科と を行った。本年7月をもって 日本大学理工学部社会交

念講演会、懇親会を先の10月 正審議) および記念式典、記 総会(学科改名による会則改 橋校舎13号館1325教室 20日(土曜日)に理工学部船 立33周年を記念して、同窓会 学科創立40周年、同窓会設

ベージ URLhttp://ww

にて開催した。 w wadachi.orgを参照。 詳細はわだちの会ホーム

部教授及び竹澤教授、山

員、電力中央研究所の研究

施した。そして、その結果

都市みらい整備セン

特別顧問

木内

孝蔵

学部土木工学科教室主任)

会計検査院 建

総括調査

理事長

漁港漁村建設技術研

:日本大学 教授(理工

盛武

学部土木工学科)

役社長

朗史

日本港湾コンサルタ

Щ

部土木工学科)

学部社会交通工学科教室主

三橋

宏次

日本大学教授 (理工学

: 日本大学

教授 (理工

:川崎市交通局

愼郎

日本大学 教授(理工

ダムの耐震、 地盤構造を研究

理工学部土木工学科 塩尻弘雄教授

旧校舎は、妹尾河童の小説 前のままの姿を残していた 「少年H」のテレビ番組に 4年兵庫県立神戸高等学校 (旧神戸一中、昨年まで戦 塩尻弘雄教授は、196

進学された。 同大学院修士 登場)を卒業、東京大学に られている。電力中央研究 0年に電力中央研究所に入 動、列車への風荷重などを 力中央研究所OBである徳 て、1992年からは、電 所時代には、一年間のコロ 所以後、原子力発電所、ダ 課程では、橋梁中の列車振 ラド大学への留学期間を経 震、免震、対衝撃設計など テーマとされたが、197 についての研究にたずさわ 再処理施設などの耐 と共に、振動研グループを おり、交友関係もひろい。

科教授として現在に至るま 教授らの誘いにより、 義を担当され、研究面で 体の解析といった内容の講 で勤務しておられる。 大学では、構造力学、 鈴村専任講師の研究室 土木工学科の花田教 い る。 橋校舎・大型杭模型等の、

形成し、共同で構造物や杭 学科、社会交通工学科、建 会・研究会にも参加されて なく、交通工学科 (現:社 ます。また、学科内だけで 造物の解析を行っておられ 他、免震、制震、地盤・構 の起振実験や観測を行う 築学科、海洋建築学科の教 により立ち上げられた勉強 会交通工学科) の色部教授 「文献の会」では、土木工 賞を受賞された。同教授 ら、1980年頃から中部 計基準改訂に伴い、動的解 らは、中部電力により立ち 転開始)。1992年頃か 年に認可、1994年に運 究対象としたアーチダム をすすめてきた (その時研 の動的解析プログラム開発 電力と共同で、アーチダム 析の必要性が生じたことか は、1977年のダムの設 (川浦ダム) は、1991

建築学科、海洋建築学科、 ティアに応募、採択されて 年度の文部省の学術フロン 共同研究をすすめ、平成11 地震観測、起振実験などの 設等の研究員が、地盤・船 機械工学科の教員、西松建

上がった解析法やモデル化 00年度の土木学会賞論文 この度、塩尻教授は20 の会」では、土木工学科、 などを行っている。「NN 解析などの文献の輪講

その後、1995年の阪神 の実証研究のメンバーとし 地震時、重力式の一庫ダム 心に研究がすすめられた。 本会の趣旨に賛同いただき、 解を深めていただければと て、シミュレーションを実 れたことを受け、管理する て参画し、アー チダムを中 役員、会務分掌について改め 覧になりさらに本会への理 供をして参ります。会報をご 水資源公団の協力を受け で大きな地震動の記録が取 いましたら、下記の事務局ま 入会頂ける方がいらっしゃ て紹介させていただきます。 存じます。以下に設立趣意、

をまとめた論文「ダム

岩

体、解析などりてより員が、コンクリート、 連続

会

通じて、各部会の活動状況を 中心に会員の皆様に情報提 人会を希望される方へ 会報では、年2回の発行を

的財産の交流・次世代への継 跡を振り返る時、明日に向け り、経済界・政界・官界にお 輩出し、学術・文化はもとよ 学の雄として幾多の人材を た人材の育成とお互いの知 てきた。傑出した諸先輩の足 いても多大な貢献を果たし 我々の母校日本大学は、私

でご一報下さい。会則・入会 申込書等をお送りさせてい ただきます。

設立趣意 評価に耐える日本大学土木

> 眉の急と考える。以上のよう めの組織化と活動は、将に焦 ダー たる人材を育成するた

進展に貢献する「日大土木 備、国民生活の向上と福祉の

101 8308

nihon-uac.jp

な国土の形成、経済基盤の整 母校の発展のみならず、豊か 各学部の特長を生かしつつ、

日大土木会事務局

東京都千代田区神田駿河台1 8

日本大学理工学部土木工学科内 tel:03 3259 0662 fax:03 3293 3319 e-mail: doboku@civil.cst.

と教員との絆を一層深め、従 に安住することなく、卒業生 らない。栄光の歴史と伝統

来の親睦的諸会とは異なる

の栄光や伝統に安住し、変革 されない。 を回避することはもはや許 持発展させるためには過去 系各学科、そして卒業生を維

員から日毎に高まっている。

方、今日、日本大学土木

を愛する卒業生ならびに教

内

生ならびに教員の持てる。経 本大学土木系各学科の卒業 えるため、更なる学術・技術 けた新しい社会的要求に応 の研鑽と進展を目指して、日 この激変する21世紀に向

承の必要性が痛感される。

りである。それに応えるため 又厳しく問われている。20世 材が求められている。国際的 されていることは周知の通 から脱却し、質的充実が要請 び卒業生の在り方と役割も 日本大学土木系各学科およ れた専門的な知識を持つ人 に高潔な人間性に裏付けさ 紀の大量生産・大量消費思想 扉が将に開かれんとする今、 国際競争激化の21世紀の

集し、産・官・学におけるリー 験と知識、勇気と叡知」を結

対する社会の評価は、誠に厳 系各学科ならびに卒業生に

裨益する「日大土木会」を発

ない、高い志を持って社会に

ため、各種事業を積極的に行

これらの目的を達成する

足させることを提案する。

ここに本会の設立に当た

いものがあり、私共はそれ

を真摯に受止めなければな

力を賜りたくお願い申し上 り関係各位のご賛同とご協

げる次第である。

っぽい性格のため、共同研 盤 貯水の連成を考慮した 論文の存在により受賞でき まで土木学会の表彰委員会 重力式ダムの三次元地震応 究者の熱心であったことが ったと思います。また飽き ない例をみており、幸運だ で論文査読にかかわってい が今回の受賞論文となっ 木学会論文集26640/ 答シミュレーション」 (土 文や研究者が、より優れた **た関係で、多くの優れた論** 受賞について、「前年度 2000年1月号) た ります。」とコメントされ 連携が積極的になされ、研 の発展のよき機会を与える います。日大土木会が、そ も、その面で今後さらに大 なっています。日本大学で 高く、社会への貢献も高く 研究成果の生産性が非常に 究成果、人材、設備等をう 「アメリカの大学等を見て て期待することとして、 のではないかと期待してお きく発展の余地があると思 まく組織的に有効活用し、 いると、産学連携、研究者 また、日大土木会に対し

日本大学土木系教員の紹

学部土木工学科、総合学生

役社長

日本大学 教授(理工

山田 清臣

森元 峯夫

佐丸 雄治

中川亮

役副社長

日本土木工業協会

工学部土木工学科教室主

:日本大学 教授(生産

塚本 恒雄 事業本部営業部長

: 鉄建建設

代表取締

横山博一

日本下水道事業団

ング

代表取締役社長

建設基礎エンジニアリ

介

代表取締役社長 :多摩都市モノレール

塚本 地方

官 (建設担当)

: 鹿島建設

建設総

邦光

: エスイー

代表取締

: ライト工業

代表取

: 大成建設

専務取締

亩

弘

締役社長

清野 茂次

芳賀 秀壽

オリエンタルコンサ 代表取締役会長

東京設計事務所

特

和田

役社長

佐藤工業

代表取締

には、ある程度の完成度

(単なる可能性の提示だけ

良かったと思います。受賞

食

根本 亮

日本風力開発

顧問

原田宏

内田 興太郎 役会長

: 大豊建設

代

表取締

竹澤 三雄

常務取締役

部土木工学科教室主任)

ダイヤコンサルタン

: 日本大学

教授 (工学

監事

介

平門

副会長

石 原

· 飛島建設 昭一郎

代表取締

瀬 在

武

ルタンツ

任理事

藤田 龍之

ンター

常務理事

首都高速道路技術セ

とが必要)が求められるた 為されていると感じます。 分、賞が期待できると思い ると、大変良い研究が多く 士論文発表会等を聞いてい 日本大学の学術講演会、修 研究が重要だと思います。 め、時間をかけた継続的な ます。」とコメントをされ でなく有用なことを示すこ ゃいます。「活躍する大学 いうものがあります。 とつに第一線で活躍してい れている先生方がいらっし はじめとして3学部4学科 木工学科の塩尻弘雄教授を る教員を紹介して欲しいと る要望として多いもののひ には多方面において活躍さ 今回紹介した理工学部土 会員の方から大学に対す

> uac.jp/ http://www.aivil.ait.nihon 生産工学部土木工学科 理工学部土木工学科 を参考にして頂ければ幸い 科ホームページの教員紹介 工学部土木工学科 http://www.trpt.cst.nihon 理工学部社会交通工学科 http://www.dvil.cst.nihor jp/gakka/doboku/index.htm http://www.ce.nihon.uac. uacjp/

て参りますが、同時に各学 駿河台校舎新1号館・完成イメージ

を設立すべしとの声は、母校 な明確な目標を持った組織 教員」では継続的に紹介し ていると確信する 会」の設立は誠に時宜を得

喫 茶 室

゙ダンスを踊って ませんかぇ み

って地元のダンスサークル 学生時代のダンパを思い出 と先輩に言われた。そんな し、ダンスでもしようと思 ある日、映画の ´Shall 無いと時間を持て余すぞ」 We Dance を観てから、 「退職したら何も趣味が である。 見ているだけで楽しいもの しない。会員は40才代から ある。練習日は各週の土、 り、姿勢が良くなった感が が、女性の服装は華やかで 70 才代の老若男女である 日もあるのでなかなか上達 日曜日であるが、行けない

S Y

56 オ)

(S44卒 生産・土木

みると結構楽しいものであ に入会した。 とうとうとうとうとう 不安であったが、踊って ューバンルンバ、チャチ 練習内容は、ラテンのキ

る。自病であった腰痛が直 くになり、 ゴ等である。 2時間たっぷ ャ、モダンのワルツ、タン つとしてダンスを踊ること り真面目に練習すると汗だ さは、また格別である。 今後も引続き、趣味の一 後のビールの旨

にしている